

“生協の質を変える” 運動がとても大切と改めて感じ

た！～7/23 青森県生協連医療部会大学習会に186名が集う～

2010年7月23日6時より、浪岡「中世の館」で開かれた大学習会では、日本生協連医療部会の藤谷恵三事務局長が「医療福祉生協連誕生と医療福祉生協の役割」というテーマで1時間30分に渡って講演をしました。

医療福祉生協連合会をなぜ今、つくるのか？という問いに、事務局長は以下のように回答しました。

「①医療・介護の崩壊を食い止める②地域を守るまちづくりのため③医療福祉生協の事業のため、という3つの回答を提示しました。資本主義経済の

仕組みが限界に近づいている中で、暮らしの厳しさ、不安定な雇用状況は今後も続くことが予想されます。日本社会の高齢化が進み、人口は減少していきます。「格差」が更にひろがります。つながりが壊れていきます。一人ひとりがばらばらではとても暮らしていけない社会になってきたのです。こうした中で、儲け一本でない経済システムが必要となっています。協同組合がその新しい社会の仕組みとして期待されているというわけです。医療生協が進めている「いのちの大運動」は社会の変化に対して医療生協の質を変える運動です。」

【参加者からの感想(抜粋)】

みなさんの職場でも、改めて医療生協の役割を話し合ってみて下さい。

○「医療生協の役割がよく分かった。地域と組合員さんとが力合わせ、社会を変えることが出来るのは医療生協だけ。老老、認認介護、医療費など現在の問題を地域で支え、解決できるよう日々の仕事の中で少しでも力となれるよう頑張りたいと思う。」

□「私たちが行なっている活動や働きかけが、どのように結びついているのかが理解できました。職員になったばかりの私でも、理解しやすく活動の意味を知ること、次の活動への活力にもつながると思います。「人と人のつながり」大切にしていきたいですね。貴重なお話ありがとうございました。」

(津軽保健生協 教育部長 竹浪 純)

